

令和 2 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。北日本太平洋側と東日本、西日本は高気圧に覆われて晴れた所が多く、降水量は少なくなりました。一方、北日本日本海側は気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく、日照時間は少なくなりました。北日本、東日本、西日本では期間の中頃に寒気の影響を受けた所がありましたが、期間のはじめと終わりに沿海州付近を通過する低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだため、気温は全国的に高く、特に北日本と西日本でかなり高くなりました。沖縄・奄美は、前線や南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多く、2 日には日降水量が沖縄県渡嘉敷で 198.5mm と 5 月の記録を更新するなど、降水量はかなり多くなりました。奄美地方は 10 日ごろに梅雨入りしたとみられます。

中旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。期間の後半は低気圧や前線の影響で、16 日には日降水量が宮崎県加久藤で 228.5mm と 5 月の記録を更新したほか、18 日には鹿児島県紫尾山で 215.5mm など九州南部を中心に、西日本から東日本太平洋側にかけて大雨となった所がありました。降水量は、東日本太平洋側と西日本で多くなりました。気温は、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込みやすかった東日本でかなり高く、西日本でも高くなりました。期間の後半にはオホーツク海高気圧が発生し、北日本を中心に寒気の影響を受けたため、北日本では平年並となりました。沖縄・奄美は、前線や台風第 1 号から変わった熱帯低気圧や、南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多く大雨となった所がありました。このため、降水量はかなり多く、日照時間は少なくなりました。沖縄地方は、11 日ごろに梅雨入りしたとみられます。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、期間のはじめは北日本を中心にオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、期間の中頃は上空の寒気を伴った低気圧の影響を受けやすかったため、北日本から東日本太平洋側を中心に曇りの日が多くなりました。その後は移動性高気圧に覆われ、北日本中心に晴れました。日照時間は北日本で多く、東日本太平洋側で少なくなりました。一方、南からの湿った気流の影響を受けにくかったため、西日本日本海側の降水量はかなり少なく、東日本と北日本・西日本太平洋側では少なくなりました。気温は、期間のはじめは冷たい高気圧の影響を受けた北日本を中心に低くなりましたが、その後は、南からの暖かい空気に覆われたことや晴れた日も多かったため、北日本と東日本では高くなりました。なお、九州南部では 5 月 30 日ごろ、四国地方では 5 月 31 日ごろに梅雨入りしたとみられます。沖縄・奄美では、前線が停滞しやすく、22 日には日降水量が沖縄県西表島で 207.5mm の大雨となるなど、曇りや雨の日が多かったため降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値 ^(注) よりも 3 ポイント高い 75%でした。地方別の適中率では、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.5℃小さい 2.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 1.6℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬～下旬に、九州地方から東北地方にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。2 週間気温予報や早期天候情報を活用するほか、週間予報で曇りや雨の日が予想され、平年よりも気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなどしてください。